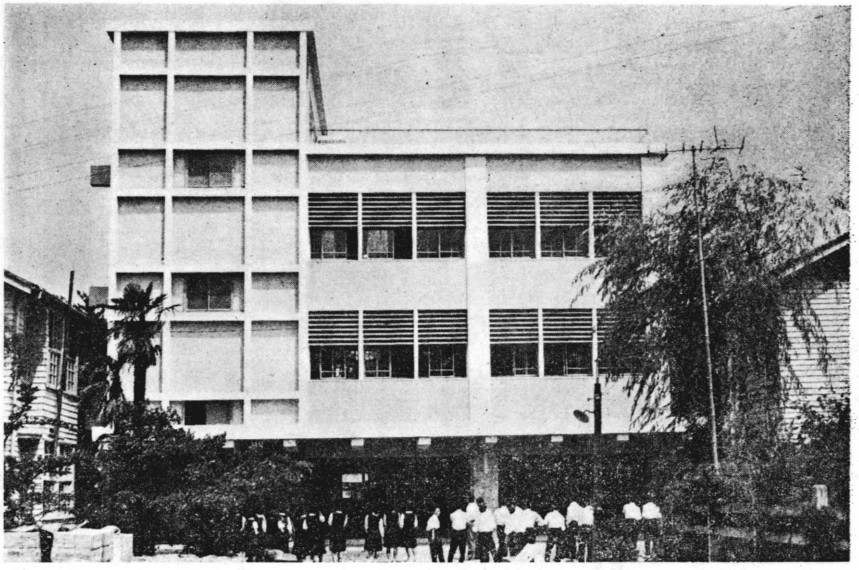
広報富士川

7月号

編集　富士川町役場内庶務課広報係
静岡県庵原郡富士川町
発行人　助役中川国兵
電話 岩渕 3・120・127
印刷所　望月印刷所　電話 岩渕 304



夏空に輝やく新校舎

鉄筋コンクリート三階建一七〇坪

おもに管理部門に使用

一一四〇後二時より関係者多数を集めて挙行されることとなり、昨年年度当初、示された町長行政方針中、三大事業の内一つは見事、結実するに至つた。これにより第二中学校の新築校舎と共に、わが町の教育の殿堂、完成増築新校舎の落成式は、二十七日午

本通三の昼火事

国道30分間も交通マヒ

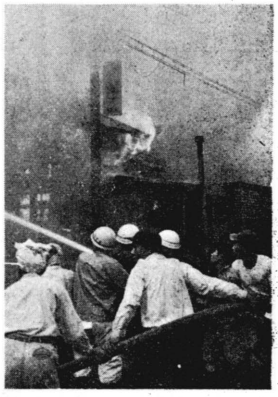
損害　約七百万円

七月八日午前八時五十分吉氏倉庫の一部を類焼、同建築材製造業小永井一雄氏所有工場より発火した火災は、池上慈氏工場、田中又九時五十分鎮火した。

全焼三棟、半焼一棟の計延坪は三一七㎡（九六坪）

被害額七百万円にのぼった

出動消防車は自動車ポンプ一一台（町五台、蒲原町三台、富士市三台）手びき車四台（本州製紙一台、白石工業一台、野田合板一台、富士川製紙一台）であり、



消火人員は一般人二五名を含む二二〇名であった。

久元の小永井一雄氏語る

「被害を受けた池上さん田中さん小林さんには勿論、町民の皆さんに深くお詫び致します。

弁解しますが、私は常日頃、工場内の管理には意を注ぎ、消火器等の設置などにも考慮を払っていたのですが……、今後一層この点に注意して、再びこんなことのないよう努力します。

ただ、今回の火災において一人の怪我人もなく、鎮火にこぎつけまして、ありがたく思っています。

消防団、一般の皆さんの御協力に対して深く感謝致します。

町にも大きな御迷惑をおかけしたわけで、今後、何の形で御恩返しを致したいと思っています」

プールは開く

盛夏、第一小学校のプールも開き、九月十日まで小中生徒の天国となる。

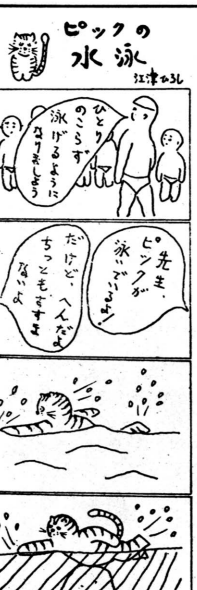
又、一般の人たちにも月曜、金曜を除き（排水のため）毎日午後五時から午後八時まで開放される。

教委会では、管理人の指示にしたがい事故のないよう呼びかけている。

生第一小2年　遊ぶと水

ピックの水泳

江津かるし



役場職員組合、誕生

定例会で関連条例決議

先月六月十四日富士川町役場職員組合が結成された全課長も含め役場職員六六名から成り、選挙の結果初代委員長に望月義信氏（土木課水道主任）副委員長に久保田安男氏（分室主任）勝呂つる氏（庶務課文書）書記長に風間清治氏（国保、衛生主任）が選ばれ、終行委員八名の決定をみた

委員長談話

「町民の皆さん、御存知のように職員組合を結成することは、地方公務員法にも認められた合法的な組織であります。

今後どこまでも公務員として誇りを持ち、健全なる市民の皆さんから愛されされる組合運動をしていきたいと思っています。

私たち自治体職員の職務は、その住民の福祉増進を第一義とし、その職務に専念することが義務づけられていますが、それにはやはり労働条件が必要なのであります。

ここにおいて、私たちの組合も、常識をはずれない範囲においての運動が必要になってくるのではないかと考えます。

よろしく御支援下さい」

なお七月九日、午前九時三十分より開会された町議会定例会において、富士川町職員団体に関する登録、交渉、業務、職務、分限についてそれぞれ条例の制定が決議された。

参院選投票率結果

有権者　八六七七人
投票者　七二一七人
投票率　八三・一七％
参考
前回参院選投票率（34年）
七四・〇七％

事故が起つてからではおそい

国民年金の保険料は三四才までの人は月額百円、三五才以上の人は月額百五十円を納期までに納めることになっています。

保険料も各町内ともお互いの協力で隣保班、納税組合など、加入者がお互いの責任でとりまとめ納入するところが非常に多くなってきました。

保険料を納めることが困難な人は、役場に届出をし保険料を法的に免除することもできます。

思わぬ事故に備え、又老後のために、保険料は納期までにキチンとおさめて下い。

今月は保険料の納期限です。本年の四、五、六月分未納保険料がありましたら、ネズミやハエの退治は家庭で行ない、根本的な大きな事業、上・下水道、しりません。私達の日常生活屋処理施設など発生源に対する整備対策は、国をはじめ市町村で環境衛生施設事業を実施促進しなければなりません。

伝染病〝セキリ〟

法定伝染病のなかで患者の数が一番多い病気です。

従来赤痢は夏の病気だといわれてきましたが現在では一年を通じて発病しており夏にかけては、やはり最高です。この赤痢病は他の伝染病のように予防接種があります。

ことぶき会（東町一・二丁目）　二九名
長生会（半在家）　二七名
木楽会（木島）　二五名
浦島会（清水）　二六名
百年会（大北）　二五名

老人クラブが結成されました

七月早々から各町内に老人クラブが結成されてきました。

福寿会（本通一・二丁目）　三八名
明老会（本通四丁目）　二九名
百余会（原方）　二七名
西野下平）　四八名
美寿司会（小山）　二六名
薬寿会（新町四十九）　三五名

白寿会（小池・宮町）　名簿未提出
宝持会（旭町）　三八名
北斗会（山田・堀の内）　四一名
八十寿会（池野・三十坂・粒良野）　二一名
八坂クラブ（市場・中沢・根方・水ノ口）　五六名
老交会（辻・道上・道下・すぐれたものを編み出し、すっかり、藤次郎に伝承されていた。　二六名
二六名
二五名
三六名

唱和の集い十余年

先祖の供養と親睦をかね

本通四丁目では、十一年前より、中年以上有志の婦人たちから成る自主的な十二日講と呼ばれる集りがあり、月一度づつ各戸輪番をもつて、先祖の供養と近隣の親睦をかねて、唱和の集いを開いてきました。

「先達」のある婦人は……

「一応、宗教的な形をとってはいるが、先祖の徳をしのび感謝するということは人間自然の姿で、宗教以前の本質的な人の道ではなかろうか。私たち御先祖さまに感謝すると同時に、いたらぬ自分を反省する場所を占めていて、そして同時に近所隣りの皆さんと仲良く暮らすためにこうした集いを持っていることを嬉しく思っています」と語っていた。

また会員の一婦人は……

「月一ぺん集まって、御詠歌、いわばコーラスをするクラブです。

私たちにとってはとても大きな楽しみで、先祖の供養をするという寒やかな気持と御詠歌の終ったあとの笑いの雑談で一カ月分の命の洗濯ができます」とはえんでいた。

つつい唱を歌を御詠に心熱

編集後記

人の流れ六月分戸籍事務上の都合により掲載不能となり、まことに申訳なく関係町民の方々に深くお詫び申上げます。

八月号には七月分を掲載してはいるが、先祖の徳をしのび感謝するということは

描き染め　その七

町の昔ばなし

生死の関

薬草

薬草取りの藤次郎は、中之郷部落ばかりでなく、近隣の村々にさえ知られていた医術をよくする男だった。

近ずくと、ぽつとした灯が見えるのと、敷物の上に横たわっている患者、それは華美な衣裳をまとった若い気品のある婦人だった。

唐突な感じを受けたが、藤次郎は再び冷静な医師の使命観に戻った。

苦痛をなくす薬液をつぼから取出し、飲ませるように勝元らしい女に指示を与えた。数えて二十たつて患者は仮死の状態に入り半刻後に生気すくめ薬だった。

患者の顔を布でおおつて気散じを防ぎ肩の傷を観察した。

矢は肌から二寸ばかりのところで切りとられていた。差出された矢羽根部分とで深さを測定した藤次郎は、矢尻が骨に達していないことを知り、比較的楽に行なわれて、矢尻を抜き出した。患部を焼酎で洗つて半練りの傷薬を塗布し、さらし木綿で巻きつけた。

薬箱を片付けていた藤次郎に近づいた武士が、年配の口調で、はじめは秘密のために二人の命をもらうつもりだつた。

術に感心させられたこと、又人の秘密を決して他へ洩らすことのないような人柄だと判つたこと、そして最初は生命を救つた神聖な業に胸をうたれたからだだと云つて、金子をとり出した。

由蔵は、帰り道、すつかり息を吹きかえしたようになつた。

藤次郎は、すでに医術に対する激しい興味の中に没入していたので、わが身がどうなるかという考えは燃えあがらなかつた。

浦原境の蓮太林の中、十坪ばかり草場のところに数人の、いずれも面を包んだ武家と、すこし離れて患者の介抱をしているらしい三人の女姿があつた。

近ずくと、ぽつとした灯が見えるのと、敷物の上に横たわっている患者、それは華美な衣裳をまとった若い気品のある婦人だった。

唐突な感じを受けたが、藤次郎は再び冷静な医師の使命観に戻った。

苦痛をなくす薬液をつぼから取出し、飲ませるように勝元らしい女に指示を与えた。数えて二十たつて患者は仮死の状態に入り半刻後に生気すくめ薬だった。

患者の顔を布でおおつて気散じを防ぎ肩の傷を観察した。

矢は肌から二寸ばかりのところで切りとられていた。差出された矢羽根部分とで深さを測定した藤次郎は、矢尻が骨に達していないことを知り、比較的楽に行なわれて、矢尻を抜き出した。患部を焼酎で洗つて半練りの傷薬を塗布し、さらし木綿で巻きつけた。

薬箱を片付けていた藤次郎に近づいた武士が、年配の口調で、はじめは秘密のために二人の命をもらうつもりだつた。

術に感心させられたこと、又人の秘密を決して他へ洩らすことのないような人柄だと判つたこと、そして最初は生命を救つた神聖な業に胸をうたれたからだだと云つて、金子をとり出した。

由蔵は、帰り道、すつかり息を吹きかえしたようになつた。（終）